

◆ 第51回鎌倉まつり報告 ◆

寺社特別拝観めぐり～鎌倉の世界遺産候補地を訪ねて～

4月13日(月)～17日(金)、世界遺産の候補地をめぐく寺社特別拝観めぐりが、推進協議会広報部会長の内海恒雄さんの案内により行われました。世界遺産候補地の寺社には、通常公開されていない史跡や文化財なども含めた特別拝観をお願いし、そのご指導を守り、より望ましい特別拝観を実施しようというものでした。

建長寺・西来庵

●4月13日

建長寺では、山門の釈迦如来や羅漢像、西来庵の昭堂、法堂の千手観音像、正統院の高峰顕日像、禅居院の聖菩薩観音像等をご住職等のご案内で特別拝観しました。



●4月14日

鶴岡八幡宮の若宮の正式参拝、源頼朝墓の法華堂跡や、荏柄天神社本殿の拝観を予定していましたが、雨天で中止しました。

●4月15日

円覚寺では、山門・仏殿・選仏場から正統院の舍利殿、白雲庵の朝鮮等の古石塔群や東明慧日像、帰源院の傑翁是英像等をご住職等のご案内で特別拝観しました。

●4月16日

寿福寺では、仏殿の釈迦三尊や栄西像等、浄光明寺では、阿弥陀三尊や冷泉為相墓から覚賢和尚の墓等を特別拝観しました。



浄光明寺・覚賢和尚墓

●4月17日

極楽寺では、本堂の不動明王や文殊菩薩像、公開日ではない転法輪殿で釈迦如来・十大弟子像等を特別拝観しました。公開されていない一升樹遺跡は、特別に見学して鎌倉時代の交通路支配の様子が確認できました。



一升樹遺跡

鎌倉大仏の謎 ～埋もれた鎌倉の歴史を探る～

4月18日(土)、鎌倉市教育委員会文化財課・福田誠さんの「鎌倉大仏の謎～埋もれた鎌倉の歴史を探る」という講演も行われました。以下はその要旨です。

鎌倉大仏に関する謎は6つ挙げることができる。①大仏はいつ造られたのか？ ②『東関紀行』に見える、寛元元年(1243)に開眼供養された木造大仏とは？ ③木造大仏と銅造大仏との関係は？ ④大仏を建立した浄光とは？ ⑤大仏の鑄造方法は？ ⑥大仏殿は存在したのか？ これらの謎のうち、発掘調査から⑤と⑥が明らかになった。

⑤について、大仏方向に高まる数層の斜面堆積が確認された。このことから、鑄型の固定のために数度に分けて周囲を土砂で埋め込むという方法が取られたことが推察され、鑄込み作業を終えた時には、大仏は完全に円錐の山に埋もれていたと考えられる上図参照)。その後、大仏を掘り出し、大仏殿を建てるため平坦な地面に再び整地し直したと考えられる。大仏が数段に



鎌倉大仏鑄込み状況模式図

分けて鑄込まれたことは大仏表面に残る横線からも推察される。またこの斜面堆積の発見は大仏がこの場所で鑄込まれたことも意味する。

⑥について、砂利と泥岩を交互に強く突き固めて地盤が強化された礎石の基礎が10ヶ所で確認された。このことから大仏殿が存在したことは確実であり、また、その規模が正面7間、145尺(約44m)、側面7間、140尺(約42.5m)、柱の数が60本に達することが推察された。しかし、『鎌倉大日記』などに見られる、津波で大仏殿が流されたという痕跡は、今回の調査では確認されなかった。